

第1回 第15期小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成28年9月28日（水）午後6時30分～午後8時40分
- 開催場所 小平市役所 6階 601会議室
- 出席者 椎名委員、山田委員、森田委員、市川委員、田中委員、白井委員
加藤委員、菊地委員、小林委員、棚井委員、千葉委員、西成委員（順不同）
- 傍聴人 なし
- 議題 第15期小平市緑化推進委員会の検討課題について
- 配付資料 (1) 第1回第15期小平市緑化推進委員会次第
(2) 第15期小平市緑化推進委員名簿
(3) 小平市緑化推進委員会設置要綱
(4) 過去の提言書について
(5) 小平市緑化推進委員会提言集
(6) 小平市緑化推進委員会第11期～第14期提言書

会議の要旨

- 委員長の選出
委員の互選により、椎名 豊勝氏に決定した。
- 副委員長の選出
委員の互選により、山田 眞久氏に決定した。
- 第15期小平市緑化推進委員会の検討課題について

委員長

本日は、検討テーマについて自由闊達なご意見を出して頂くのが良いかと考えている。皆さんが日頃感じている緑に関することについて、お一人ずつお話を頂きたい。

委員

過去の提言書を見て思ったが、グリーンロード沿いにあった水車をととても懐かしく思う。あの水車でついたお米を食べた思い出もあり、復元は私にとってとても魅力的に感

じる。また、グリーンロードからそういった景色が見られたら素晴らしい。

委員

私は用水路に水が流れていない時期にこの街に引っ越してきた。その時は、汚い所に来てしまったという印象だった。しかし、用水路に入る機会があり、その時から用水路に興味を持つようになった。その後環境にも興味を持つようになり、そういった活動を行う団体に加入するようになった。

自分のところにも用水路が流れているが、各自が自分のところの用水路を少しきれいにするくらいの気持ちでいけば、小平市の資産になるのではないかな。

委員長

玉川上水は淀橋浄水場の廃止から清流復活事業までの間、空堀だった時期があるが、市内の用水路の通水が全くなかったという時期はない。通水区間が50%から70%になったというようなことはあるので、自分の家の前の用水路に水が流れていなかったのが流れるようになったというような状況が、人によってはあったかもしれない。

委員

用水路でホテルやコイが見られるようになり、ずいぶん変わってきたという印象を受ける。

ポケモンGOを始めたが、これを活用して観光につなげられないか。小平は下水道が取り上げられることが多いが、例えば緑化推進委員会独自のキャラクターを出したりして、それを集めてお店などで割引を受けられるなどの特典につながるような仕組みがあれば、エメラルドネックレスという言葉が定着していくことにつながるのではないかな。

委員

人口減は大きな問題をいろいろな所に発生させている。

小平に住んで40年ほどになるが、昔は周りが麦畑だった。畑はその多くがなくなっていたが、現在も小平市の人口18万人強のうち、ある程度の農業人口がある。そのため農地も結構あるのだと思うが、それがどこまで整備されているのか疑問である。

また、高齢化によって空き家が増えている印象があり、その撤去後には土地を分割して、緑を植える余裕がほとんどないような小さな家が建ってしまうのをよく目にする。子どもが生まれてから死ぬまでいい街だったなと思われるような街づくりをするために、ネックとなるのは何なのかというのを明らかにしていきたい。

委員

資料を見せていただいて、オープンガーデンはどの人も立派にやられていると感じたが、市から援助は出ているのかな。

事務局

基本的にオープンガーデンというのは、個人や会社などの庭を非常にきれいにされている方で、他の方にも見て欲しいという方を、パンフレットに掲載して多くの方に紹介させていただくという趣旨であるので、補助金はない。

委員

どれも素晴らしいものなので、市から感謝の意味でも、少し援助をしてもよいのではないか。

また、名木百選には珍しい樹種も多く登録されており、こうしたものを小・中学校に植えてはどうか。

それから、第14期の提言書では「小平市を全国・グローバルへ」という副題があり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてちょうどいいと思った。小平市観光エリアマップには「都会から一番近いプチ田舎」という標語が掲げられており、グリーンロードや玉川上水を外国の方に案内していくようなイベントをして、観光的魅力の向上を図るのもよいのではないか。

委員長

市の動きとして、ここで観光まちづくり振興プランが作られ、観光協会や観光大使というものが出来てきている。そのあたりの考え方はどうか。

事務局

市で言っている観光というのは、外からどんどん人を呼び込むというようなことではない。

委員長

観光まちづくり振興プランの本質をお聞きしたい。担当部局の方にプチ田舎の概念、観光協会や観光大使、またターゲットは何なのかということについて説明してもらうのがいいかもしれない。

委員

ブルーベリーは小平が発祥の地であるが、その割に認知度がまだ不十分だと感じる。発祥の地であり特産物であるならば、公共用地を含め作付面積を増やしていった方がいいのではないか。最近東京近郊でもキウイやウドなどを特産品として扱っているところがあるが、小平で何を売りにするのとなればブルーベリーは外せないだろう。

空き家の話が出たが、2年前くらいの市議会の答弁で、木造が541件、非木造が4件あるということだった。そうした土地が更地になると、分割され緑化に適さない土地や、震災時等に行き詰まるような幅員の狭い道路が増えてくる。

数年前の新聞記事によると、立川断層直下型地震が起きた場合、小平市でも大きな被害が予想されるとのことだった。そのあたりも緑化推進委員会とは直接関係ないかも知れないが、緑化と二律背反な面もあるのではないか。

委員

グリーンロード推進協議会でボランティア活動をやっているが、その中で言われるのは、市役所内の横のつながりや、東京都との連携が十分にされていないのではないかとということである。ボランティアが気持ちよく活動をするためにはそうしたものが十分にされている必要があると感じる。

緑が少なくなっているのを感じる。先ほどもあったが、家が潰れると、土地が細分化されて売り出される。そうした土地に緑を入れないのは賢い業者で、緑を入れると2、3年後には当然大きくなり、切る必要が出てくる。こういうこともあるので、小平の緑が今後さらに減っていくだろうということを心配している。

公共の施設における緑については、小さな公園が家の近所にあるが、ここに数年経てば邪魔になって切らなければならないような木が植えられている。最近では地域住民が管理をしていくという時代になっているので、緑を大切にしていこうということであれば緑を植えるにしても樹種に配慮した方がよい。

用水については、通水が70%になったというが、花小金井の端の方に住んでいるので、ほとんど流れていない。水がある市とない市では全く雰囲気が違うので、小平の財産として何としても住民が認識できるような形で復活できるとよい。

委員

市内の複数の箇所に住んだ経験があるが、仲町あたりは緑が少なかった印象がある。

この会の発足から30年程になるということだが、まだ手をつけていない区域の水と緑に目を付けてみてはどうか。また、緑は横の広がりも必要なので、小平に隣接する7市と協力した取組なども必要ではないか。

個人的には石神井公園にあるボートの乗れる池のような場所が小平にあると、緑が増え、人が集まって良いと思うが、どこに作るかといえは難しい。

委員

人口減とはいいつつも小平では人口が微増しており、今後20万人くらいまではいくと思われる。そこで、20万都市の緑化とは何かということ的位置づけたほうが、市内外の方の共感を得られるのではないか。また、そうするとプチ田舎との関係も考える必要がある。

もう一つは、緑化のレベルアップということで、例えば市内の用水路は素晴らしい半面、水が流れていない区間や護岸の問題がある。雑木林では、その質の向上に努めている方もいる。緑化のレベルアップをするための具体的方策を検討してみてはどうか。

委員

人間は損得に辛いので、経済効果に結びつける必要がある。例えば、老人を歩かせて健康になってもらいたいと思ったら、歩きやすい場所を作るほかに、歩いた分だけポイントになって、それが還元されるような仕組み。緑であれば、家を建てて木を植えたら、その維持管理について何かしらの税制で補うような仕組みが必要。

また自然は戻しすぎると不都合も出てくる。鳥も増えすぎると農作物に被害をもたらしたりもする。

観光だけでは長続きしないので、経済的なサイクルの道筋が立てられたら良い。

委員長

人口については着目した方がいいかもしれない。

社会的移動率は、小平は多い方だと思うが、東京都の中でどのくらいの位置なのか、増える割合がどれくらいか、そういうようなことが年代別にわかるとよい。緑が魅力あるまちの要素であるならば、人口はそれをはかる要素になるだろう。

委員

今、都市の緑化のレベルがどうなっているかというデータを集めており、その中で各都市をみると、緑化の質によって人口が変わってきている。

農地や雑木林、屋敷林が開発によって減少している中においては、今ある緑の質をいかに高くするかということがテーマとなる。緑の確保のためには今ある緑を市民が心地よく利用できるよう、質を向上させることが必要であり、そこには生物多様性も入ってくる。そのあたりを検討してはどうか。

委員

市内にブリヂストンの工場があり、この関係者の15万人程が出入りしていると聞いたが、これを考慮してもいいかもしれない。

委員

毎年、東京都の玉川上水の会議に出席しているが、どの市町村も問題を抱えており、色々な提案をしている。桜並木の部分については、定期的に整備をしているが、桜に影響するということで、いずれ小平でもその部分に生えているケヤキはなくなると思う。

委員長

このあたりの玉川上水には二つの指定がかかっており、一つは国の名勝「小金井」が指す境橋から商大橋（小川水衛所）までの桜。文化財保護というのは指定時の現状保存というのが大前提であるので、その状態に戻すというのが趣旨である。

もう一つは素掘りの開渠が史跡となっている。一つの問題は斜面に生えているケヤキが倒れたりすると斜面を崩すというようなことがある。

今、雑木を切って桜を植えるということをやっているが、今年は小金井市と武蔵野市の方でやると聞いた。小平市もそれをどうするかを決めなくてはいけなくなる。

そうすると、当然おっしゃられるような状況になってくるが、せっかくあれだけケヤキなどが育っていて、それを排除してしまうわけだから当然反発も生まれてくる。ただ、文化財保護法はそういう趣旨であるので、どうしようもないところもある。

緑化推進委員会として、そのあたりの問題に触れるかどうかは、皆さんの意見を聞いていきたい。

人口の推移、プチ田舎、観光振興プラン、観光協会、観光大使などについては次回説明いただきたい。

以上